

毎月第二日曜日午後二時より阿弥陀堂にて納骨堂説明会を行っています。

餘慶寺境内紹介

じぞうどうこんじゃく

『地蔵堂今昔』

本堂南にある地蔵堂は、地蔵菩薩と十王をお祀りし、併せて二十人程度の会議もできる建物を作ろうということで、平成四年に再建されたお堂です。

ここには、以前、寄せ棟造りのお堂があり、壁で仕切られた南半分は地蔵菩薩と十王がお祀りしてあり、北半分は本堂や境内を清掃し、夕方には梵鐘を撞いていた人の休憩ができる部屋となっていました。

しかし、先の大戦で米軍の空襲が激しくなった昭和十九年に餘慶寺各院へ神戸市西須磨国民学校四・五年生の児童が学童集団疎開として来ました。その時このお堂は食堂に改造されました。



(大正初期の地蔵堂)

戦争が終わり疎開児童の帰ったあとは、屋根と柱を残すだけとなり、いつしか取り壊されて、往時の建物の土台石を幾つか残して空地の状態になっていました。昭和三十九年ごろから地蔵堂再建の気運が高まり、檀家皆様のご理解ご支援もあつて平成四年に再建され今日に至っています。

よけいじ寺子屋だより

会場 餘慶寺会館(十四時)

寺子屋写真館



今後の予定

- ☆「十重四十八輕戒について」 九月十六日(日) 西野祐誠師 講師 定光院住職
 - ☆「特別な名前の付いた刀剣」 九月二十九日(土) 植野哲也先生 講師 林原美術館主任学芸員
 - ☆「寺宝展 特別講演」 十月十四日(日) 大石恵海師 講師 本業院住職
 - ☆「正しい見方」 十月二十日(土) 小林周伸師 講師 吉祥院住職
 - ☆「お大師さん」 十一月二十四日(土) 神戶淑子先生 講師 日本画家 岡山日展会員
 - ☆「楽しく年賀状づくり」 十二月一日(土)
- ※どなたでも聴講できます。お誘い合わせのうえ、ご参加ください。十一月一日は十四時～十六時開催です。

編集後記

お盆・水まつりが終わり九月に入り少し涼しくなってきました。今年の夏は棚経やお盆、水まつりの準備の他に西日本豪雨のボランティアに参加した被災者の皆様方の少しくも早くの復興へのお手伝いをさせていただけました。まだまだ暑い日が続きますのでしっかりと体調に気をつけてお過ごし下さい。

餘慶寺だより

編集・発行 上寺山餘慶寺

〒701-4232 岡山県瀬戸内市邑久町北島 1187
納経所 TEL 086-942-0186 FAX 086-942-0187
恵光院 TEL/FAX 086-942-3788
本乗院 TEL 086-942-2791 FAX 086-239-5823
吉祥院 TEL/FAX 086-942-3789
定光院 TEL 086-942-2356 FAX 086-944-1490
明王院 TEL 086-943-1030 FAX 086-943-1069
圓乗院 TEL 086-942-2356
ホームページアドレス <http://www.yokeiji.jp/>

ひとくち法話

お彼岸

今年の夏は異常な猛暑でした、昔から「暑さ寒さも彼岸まで」と言いますが、この積善が皆さんのお手元に届くころには暑さも和らいでいることを切望します。

お彼岸は年に二回、春と秋にあり、今年の秋の彼岸の期間は、九月二十日から二十六日までの一週間です。

彼岸の風習は平安時代に公家の間で始まり、鎌倉時代には庶民にも浸透し、厳しい年貢の取り立てや現世(此岸)に対する苦勞から来世(彼岸)こそは、幸せな世界に生まれ変わらることを願う日々、善行に励み功徳を積む風習となりました。

秋の彼岸は、秋分の日を中日として、前半の期間は春の彼岸から現在までの自身の行い(言動)を振り返り反省し、後半の期間はこの反省を基にこれからの自分の在り方を今一度考えなおす期間です。

最近のお彼岸では、お墓参りをしてご先祖さまに感謝し、彼岸である極楽浄土にて静かに休まれることを祈っておりますが、此岸にいる我々はご先祖様への感謝と共に、今の自分の行いを省み、更なる善根功徳を積み積善を実践してみたいかがでしょうか。



餘慶寺からのお知らせ

薬師縁日(於 薬師堂)
毎月8日 午前10時～ (8月はありません)
護摩供養をしています。
ご祈祷のお申し込みは随時納経所で受け付けています。
観音縁日(於 本堂)
毎月18日 午前8時～
みんなで観音経をあげます。お経本は本堂にありますので、お気軽にお詣りください。



奉納書道展、締め切り迫る!(九月二十日(木)まで)

各院または納経所へお届けください。

まいられえ岡山 寺社仏閣を巡るスタンプラリー開催中

餘慶寺寺宝展

十月十四日(日) 九時三十分～十六時

会場 本堂・薬師堂・餘慶寺会館

今年で第十六回となりました餘慶寺寺宝展が右記日時に開催されます。今回は地藏堂に祀られている地藏菩薩像および十王像の修復が無事完了いたしましたので、修理報告を兼ねて、本堂で展示をし、皆様にお披露目をいたします。間近でお参りいただき功德をいただいで下さい。

また、特別講演会としましてRSKアナウンサーの方にお越しいただき楽しいひとときを皆様にご提供致します。

そのほか、特別演奏会や己書体験、カフェや出店など、様々なイベントをご用意して皆様のお参りをお待ちしていますので、お誘い合わせの上、ぜひ上寺へおいでください。なお、詳細につきましては別紙チラシをご覧ください。

昨年の寺宝展の様子



餘慶寺水まつりのご報告

八月二十五日(土)十八時より、餘慶寺本堂・境内において水まつり(施餓鬼会・万灯会)を厳修いたしました。施餓鬼会とは、阿難が釈尊に教えを請い、餓鬼の予言により残り三日の命であった寿命を延ばすことができた説話にもとづく仏教行事で餓鬼だけでなく、先祖代々の供養を行い、同時にみなさん自身の福德延寿をお祈りさせていただく法要です。

また万灯会では、ご先祖様の菩提をお祈りし奉納していただきました万灯会灯籠や瀬戸内市在住の竹あかりアーティスト・竹吉による竹あかりの演出、寺遊びinよけいじにて子ども達が思い思いの色に塗った仏様を灯した展示など、様々な灯りに囲まれました。また、岡山学芸館高校和太鼓部による演奏奉納が境内に鳴り響きなご一層、幻想的に荘厳され、参拝された方の「心にも灯りが灯り、自然と笑顔があふれ、悠々とした時が流れました。



お祖師さまの御教え

『忘己利他』

(伝教大師 最澄)

人間の性として、私たちはどうしても自分中心に考えてしまうことがあります。もっと欲しい、こうして欲しい、とまわりに望むことが多くなりがちです。

伝教大師最澄様がかかれた【山家学生式】に

『己を忘れて他を利用するは慈悲の極みなり』

という言葉があります。これは自分のことは後にして、まず人に喜んでいただくことをする、それは仏さまの行いで、そこに幸せがあるのだという言葉です。

我々も自分第一に考えるのではなく相手の事を思いやって、相手の事を第一に考えられる人になれるよう日々努力しましょう。



薬師護摩祈禱 護摩木三百円 木札授与三千円／五千円